

令和3年度 障害者福祉ホーム サンライズ野上野

事業報告書

1. 施設運営の基本目標

- (1) 安心と安全の広がる自立生活の実現を図る
- (2) 誰でもくつろげる生活環境の整備を進める
- (3) 積極的な外出と社会参加を推進する

2. 入居者の状況

*令和4年3月末現在

居室	入居者	性別・年齢	出身地
		入居利用期間	
1号室	S・T	男性・66歳	湖南省
		(継続) 4年2ヶ月	
2号室	K・A	女性・19歳	甲賀市
		(継続) 1年	
3号室			
4号室	M・H	男性・61歳	甲賀市
		*令和3年8月利用開始	
5号室			

3. 令和3年度事業総括

(1) 安心と安全の広がる自立生活の実現を図る

- ① 入居者が積極的に自分の生活づくりに取り組むことへの支援を推進する。

【食事づくりへの支援】

食事づくりについて、自身で調理等の遂行が困難なため共同炊事を希望される入居者に対して、管理人が中心となり日々の食事づくりへの支援を実施した。

【衛生面での支援】

居室の清掃は、入居者個々の責任において実施していただいている。また日々のごみ捨てや居室の整頓などについては、管理人が可能な範囲で支援を行なった。自身での遂行が困難な入居者1名については、ホームヘルプサービスを利用して、居室の清掃をされている。

【日常の外出への支援】

単独で外出される方は1名おられ、介護タクシーや公共交通機関を利用して外出されている。外出時は車両等に十分気を付ける事、困ったときには周囲の人に助けを求める事など、適時助言を行った。

【金銭管理への支援】

入居者が責任を持って管理することが原則だが、銀行へ出向くことが難しい入居者は、るりこう園の事務員に依頼された。また2名においては後見人制度を利用され金銭の管理を委ねられている。

【健康への支援】

体調不良時は相談員やるりこう園看護師に相談されている。定期通院をされている方については、適時に本人および通院同行ヘルパーなどからの情報収集に努めた。

本年度においては、体調不良を訴えられた1名について約1ヶ月間入院されることがあった。退院後は夜間の不安を訴えられた為、約1週間るりこう園にて短期入所を利用され、その間にホームでの支援体制の見直しを行った。

② 入居者の健やかで安全な生活の保障

火災避難訓練をるりこう園と連動して実施した（2回実施）。

③ 相談員業務について

i) 入居者からの生活全般についての相談に対して、次の3名が日々に個々の課題に応じて相談に対応した。

サンライズ野上野施設長

サンライズ野上野相談員

るりこう園地域支援課主任

ii) 管理人の配置計画（月々の勤務表）を作成した。

年度当初は4名の管理人を配置していたが、年度途中で2名が退職、新たに管理人1名を採用し、月々に配置計画（勤務表）を作成した。

	管理人の勤務時間数		管理人の勤務時間数
4月	136時間	10月	144時間
5月	152時間	11月	172時間
6月	136時間	12月	128時間
7月	147.5時間	1月	128時間
8月	151時間	2月	134時間
9月	134時間	3月	140時間
年間合計	1,702.5時間	月平均	141.9時間

④ 管理人業務について

i) 勤務時間について

日曜日・祝日は、11:00～20:00、
その他は、16:00～20:00 とした。

ii) 福祉ホーム内および周辺の美化と衛生

共同部分（ホール、廊下等）の日常的な掃除を実施した。また、入居者の希望に応じて居室の掃除も援助した。

iii) 入居者にゆとりある対話や助言

ほとんどの方が各自の部屋で過ごされるため、以前に比べて管理人とゆっくり会話することは減っている。食事も早々に済ませて居室へ戻られる方が多い状況である。しかしながら今年度より管理人の勤務時間を延長したことから夕刻以降の時間帯を中心に入居者の方々への声かけなどに配慮を行った。

iv) 入居者の生活場面での安全確保

個々の身体状況や生活状況を把握しながら、入居者からの要望に応じて援助を行なった。

v) 管理人会議の開催

管理人会議を8月、2月に開催した。

(2) 誰でもがくつろげる生活環境の整備を進める

◎ホール兼談話コーナーの活用と充実

本来、入居者が家族や友人との談話やさまざまな人と交流し友好を深める場として使用していただきたいが、昨年来よりのコロナ禍の影響もあり、具体的な利用には至らなかった。

(3) 積極的な外出活動と社会参加を推進する

◎積極的な外出活動の推進

介護タクシーや公共交通機関等を利用して外出されている方が1名。単独での外出が難しい方は、ホームヘルプを利用したり、通所施設での外出機会を利用されているが、今年度においてもコロナ禍の影響により可能な範囲で外出の自粛を要請することとなった。

4. その他

①新型コロナウイルス感染症への対応措置の継続実施

*昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症について、その対応措置を継続して講じてきた。福祉ホーム内の各所消毒、食堂におけるパーテーション設置、入居者の他施設通所の制限、面会の制限など、福祉ホームは当然の事ながら隣接する本体施設りこう園への影響をも鑑み、取り組んできている。

現時点においてもなお終息が見えない状況の中、次年度もこの対応措置について、引き続き徹底と継続を行う必要がある。併せて、生活様式などの変化による入居者の暮らしぶりや思いにも十分な配慮を行っていく。

②個々の入居者状況

- *1名の方（くも膜下出血・高次脳機能障害/49歳/男性）が、エントリーされていた施設入所待機の順番がまわってきたことから、ご家族と相談され施設入所へ移行された。福祉ホームの利用期間は2年6ヶ月であった。
- *1名の方（脳性まひ/66歳/女性）が、年度当初より室内での転倒（移乗の失敗）が目立ち始め身体機能の低下が見られるようになった。また5月には体調不良により約1か月間入院加療された。このことから居宅介護を含めた支援体制の見直しを検討し体制を整えた。その後、エントリーされていた施設入所待機の順番がまわってきたことから、ご家族と相談され施設入所へ移行された。福祉ホームの利用期間は12年11ヶ月であった。
- *1名の方（脊髄損傷/66歳/男性）が、障がい福祉サービスと併用して介護保険サービスの利用を開始、地元の通所介護事業所を週1回利用されるようになった。また年末頃より下肢（股関節）の痛みを訴えられ病院受診されたが、特に顕著な要因は見られなかった。施設入所のエントリーをされている。
- *1名の方（脳性まひ/19歳/女性）が、昨年3月に特別支援学校を卒業後、福祉ホームを利用開始され1年が経過した。日中は近在の通所施設（作業所）を利用、朝夕に居宅介護のサービスを利用しての暮らしを組み立て、大きなトラブルもなく無事1年を過ごすことができた。生活に慣れてくる中で徐々に支援者への依存心（甘え）も見られてきたが、関係者会議を開催し対応方法を統一する等の対策を行った。家族と離れての初めての一人暮らしに果敢にチャレンジされた1年であった。
- *新規入居者（脳出血/61歳/男性）が8月に利用を開始された。発症後、入院、老健施設入所、訓練施設入所を経て、福祉ホームの利用に至った経緯がある方で、就労経験や単身生活の経験もあることから生活の自立度は高い様子。ホーム利用後に日中の活動場所として近在の通所施設（作業所）を利用開始され、ひとまず安定した生活を送られている。単独で自力歩行や公共交通機関などを利用して、買物など外出をされており今のところトラブルもなく遂行されている。外出時は車両等に十分気を付ける事、困ったときには周囲の人に助けを求める事など、適時の助言を継続して伝えていきたい。

③関係者会議（ケース会議）の開催

*入居者の内、3名について関係者会議（ケース会議）を開催した。

①脊髄損傷/66歳/男性	開催日：R3.11.26 目的：介護保険サービスの利用調整について
--------------	--------------------------------------

	出席者：市担当者・計画相談支援事業所担当者・ケアマネジャー・通所介護施設担当職員・福祉ホーム相談員・他
②脳出血/61歳/男性	開催日：R3.8.4 目的：福祉ホーム入居調整 出席者：市担当者・計画相談支援事業所担当者・訓練施設担当職員・後見人・福祉ホーム担当者・他
③脳性まひ/19歳/女性	開催日：R4.2.9 目的：ケースの情緒面での変化と対応の統一について 出席者：計画相談支援事業所担当者・通所施設担当職員・福祉ホーム相談員・他

④甲賀市健康福祉部による実地指導の受審

*令和4年3月23日甲賀市健康福祉部障がい福祉課担当者2名による令和3年度実地指導を受審し、結果指摘事項等なく良好であるとの結果報告を受ける。

以上